

砂名の ベトナムに乾杯

第12回 安全神話の日本とベトナムあるある

2018年2月。アオザイ会でホーチミン市の地下鉄工事の見学をさせていただいた。清水建設・前田建設の方が案内してくださいました。

「日本では、無事故無違反が100万時間を超すと安全性に富んだ優秀な工事だと評されるが、おかげさまでこのベトナムの工事では630万時間を超している」と話しておられた。

それでも工事開始当初は工事現場に、裸足にサンダル履きでやってくるベトナム人作業員、「ヘルメットって何?」と聞き返すベトナム人工員、何も言わずに命綱を渡したところ、何と首に巻いたそう。ふざけているのかと思ったら真顔だった…という笑い話のような話を聞くにつけ、さぞかしたいへんな道のりだっただろうと想像に難くない。

角打ち【日本酒で乾杯!】でも製造業にお勤めのお客様が多く、よく「安全性」の話になる。現場では必ず長靴を着用するようにと注意すると、サンダル履きで通勤してくるため、長靴を履くためにはソックスが必要だ、会社で支給してくれと言いつつ始末。

「私の工場では、私がベトナムに着任してから(7年間)、まだ一度も事故やケガ人を出したことがない!」

それがとてもすごいことだということは、地下鉄見学をさせていただいて、私にも分かるようになった。

「ところがね、唯一、怪我をした人がい



2018年2月、ホーチミン市地下鉄第一号線の工事現場を見学させていただいた。

て、医務室を訪ねた」

誰だろう、ご本人だった。

「どんな怪我だったと思う?」

みんな、どんなたいへんな怪我だったのだろうと、考えをめぐらす。

「紙で指を切った!とか?」

冗談で言ってみた。というのも、「ミッション：インポッシブル/フォールアウト」で、トム・クルーズが窓から隣のビルの屋上に飛び移る際に足を骨折したが、そのシーンがそのまま使われたことで大いに注目された、と、インタビューで話題になっていた。すると傍らにいたサイモン・ペッグが、

「俺もケガをしたのに…(誰も注目してくれない)」

「どんな怪我を?」

「紙で指を切った!」(大爆笑)

というシーンを思い出したからだ。

当のご本人は「先に言うなよ!」とご不満なようす。どうやら凶星だったようだ。

さて私が東京で仕事をしていた舞台の

現場でも、やはり事故や病院沙汰が多かった。セットが倒れて来た、セットから落ちた、奈落に落ちた、主役俳優が本番前に熱を出した、移動中に交通事故に巻き込まれた、などなど。私も幕の下を横切ろうとして怒鳴られたことがある。見上げると、今まさに幕が降りて来る場所だった。大劇場の幕の下敷きになったら、最悪の場合、怪我をしたのでは済まないかも知れない。

「舞台には魔物がいる」

とまことしやかに囁かれる所以だが、顔合わせから千秋楽まで、初顔合わせがほとんどだ。プロ意識が高く、気性の激しい俳優や裏方たちが集まって和気藹々、チームワークが良いというのはまれである。楽屋には神棚が祀っており、「おはようございます」と稽古場に顔を出したらまず手を合わせる…そんな劇場もあったが。

事故は神頼みで防ぐものではない。



月森砂名(つきもりさな)

奈良県出身。同志社大学文学部卒業。2015年よりホーチミン市にて、日本酒の普及を目的に、ベトナムで初の日本酒専門店、角打ち【日本酒で乾杯!】を立ち上げる。東京で舞台写真の撮影や舞台制作に従事する一方で、2001年より「月森砂名」名で、小説やフォトアートの作家活動を行う。2009年設立のNPO法人 Layer Boxにて、日本の伝統文化・伝統産業について、大学、高校、専門学校などと、プロモーションビデオ、3D、CGなどでコンテンツ制作を行い、世界に発信する事業に取り組む。